

# 社協たより

第155号

2012.9.1

点字版あります

【編集・発行】社会福祉法人 直方市社会福祉協議会 〒822-0034 直方市大字山部616-145  
TEL0949(23)2551 FAX0949(23)2552  
e-mail:nogata-shakyo@fuga.ocn.ne.jp HP:http://www.nogatashakyo.org/



## 出張おもちゃ図書館のおがた

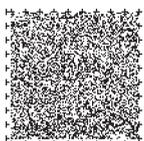
## in 金田駅

平成筑豊鉄道金田駅の展示鉄道車両の中に置かれたおもちゃで遊ぶ子どもたち。(2012年5月4日)

### もくじ

- 上頓野自主防災活動  
～支え合う地域づくり～ ..... 2
- 地域の輪(脊髄損傷者連合会)  
情報の広場  
(おもちゃ図書館ボランティア・スタッフ募集、  
赤い羽根共同募金運動のお知らせ)
- 図書室(おまけの名作カバヤ文庫物語) ..... 3
- お知らせ(福祉まつり開催、登録ヘルパー募集)  
ご寄付 ..... 4

そんな気持ちに  
させられるのは  
なんだろうか？  
(石黒)



今年も5月3日、4日に出張開館を行った。スタッフの嬉しい悲鳴、列車内が満員、入館で大きな程の大盛況。昨年を上回る80名の人が訪れてくれた。子どもたちの元気な笑顔、そして私たちも元気の源をいただいた。また来年も。

列車を利用して出張おもちゃ図書館をやってみようか。5月5日のこどもの日は家族で出かけるだろう。3日と4日はどうだろう。でも来てくれるのかと不安を胸に準備に入った。おもちゃの選別、陳列、列車内飾りつけなど初めてのことがばかり。そして開館。でも心配が喜びに変わった。2日間で60人余の利用者が来てくれた。

おもちゃ図書館のおがたが開館3年目を迎えた去年、利用者が減少気味になり利用者を増やす妙案はないかと模索していた時に、ふと目についた記事。平成筑豊鉄道金田駅で引退列車を無償で貸してくれるという。

おもちゃ図書館のおがた  
出張開館

kantera

カンテラ

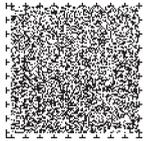


この社協たよりは、赤い羽根共同募金の配分金で作成しております。

# 災害時の「要援護者避難支援」体制

## 上頓野校区 自主防災会

### ～支え合う地域づくり～



上頓野校区は、ここ2年連続の集中豪雨で多くの被害が発生、更に国より「土砂災害警戒及び特別警戒区域」の指定を受けました。これらを受け、前上頓野校区自治区公民館長である藤田弘喜さんから役員が上頓野校区自主防災会（以下「自主防災会」）を立ち上げました。現在では、現公民館館長の上川光明さん、副館長の飯野良治さんの元、土砂災害訓練・避難訓練などの様々な対策を行い、今年



月1日より災害時避難行動要支援者個別計画を策定し、災害時要援護者避難支援体制を開始しました。

災害時要援護者避難支援体制では、一人の要援護者に対して6人～8人体制の支援班を設置します。平常時はコミュニケーション作りなどを行い、災害時には情報の伝達・安否確認・避難誘導・避難所での生活支援などを行います。



平成24年度現在、上頓野校



これからの自主防災会としては、「区長・班長・民生委員等と連携し、要援護者の拾い上げを進めつつ、支援体制の拡大に努め、支え合う地域づくり」をスローガンに、取り組んでいきたい」とのことでした。

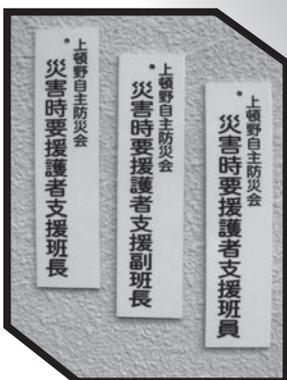
現在、自主防災会では、訓練や実際の避難に使用する車いすの寄贈をしてくださる方を探しています。古くなって使わなくなった車いすも大歓迎です。

ご連絡は、直方市社会福祉協議会までお願いいたします。

☎0949(23)2551

区には、一人で避難することが困難であるとされる災害時要援護者が140名います。その内、家族などの支援が受けられない避難行動要支援者32名が登録をしています。また、登録されていない方に対しても、普段から声掛けなどの活動に努めています。

また、自主防災会では、災害時要援護者支援班長・副班長・班員宅の玄関に、名札（下図）を取り付け、支援体制の浸透拡大に努めています。



# 地域の輪

地域に根ざした独自の  
福祉活動をご紹介します。

## 福岡県脊髄損傷者連合会

### 筑豊支部

福岡県脊髄損傷者連合会筑豊支部は、事故や病気などで脊髄を損傷したために常時車いすを使用して生活する筑豊地域に居住する者の集まりです。

また、おおよその会員が、ある日突然に人生の途中で（中途）障害者になり、そこから車いす障害者の生活を送るうえでの、脊損に起因する疾病の予防や対策や経験談、車いす生活での工夫やコツ、社会資源や街のバリアフリー情報などを、会員相互で経験を元にしたアドバイスを伝えたり、情報交換したりして助け合っています。

最近の活動としては、脊損者の相談会、市町村への要望活動、車いす体験学習



などへの協力、レクリエーションなどを障害当事者が主体的に行っています。

市内の会員は「会員は高齢化していますが、みんなが活動していければと思います」と話されました。興味ある方はネットにて「福脊連」で検索下さい。当会のサイトがあります。

(T・F)

# 情報の広場

## おもちゃ図書館のおがたボランティア・スタッフ募集

おもちゃ図書館のおがたでは、障がいのあるなしに関わらず、子どもたちが共におもちゃで楽しく遊ぶことのできる場を作っています。

そこで、より充実したおもちゃ図書館にするために、共に活動を行ってくださるボランティア・スタッフを募集しています。

活動内容としては、子どもたちと一緒に遊ぶ、おもちゃのお医者さん（修理を行う、手作りおもちゃを作成する、各種イベントを実施する、地域の催しに参加する、など）活動は様々です。もちろん全部に参加する必要はありません。ご自分の参加できる範囲で一緒に活動しましょう。少しでも興味のある方はいつでもご連絡ください。もちろん直接来ていただくだけでも結構です。どうぞいつでも遊びにきてください。



### 【開館日時】

毎週土曜日、第2・第4火曜日  
10時～15時

### 【場所】

直方市総合福祉センター  
(大字山部616-145)

### 【お問い合わせ】

☎0949(23)2551

## 赤い羽根共同募金運動のお知らせ

今年も10月1日～12月31日までの3ヶ月間、赤い羽根共同募金運動が全国で一斉展開されます。

赤い羽根共同募金運動は1947年から60年余りも続いている、民間の社会福祉の推進のための運動です。募金していただいたお金の多くは直方市をより良い街にするために使われています。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

赤い羽根のホームページ

「はねっと」  
<http://www.akaihane.or.jp/>



## 図書室

### 「おまけの名作

### カバヤ文庫物語」

著者 坪内 稔典  
発行所 いんてる社



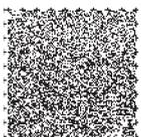
キャラメルのおまけが子どもたちの読書を育てた。その様子を記したもので、当時の記憶が懐かしい。必読ものです。

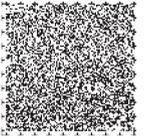
カバヤ文庫とは、カバヤキャラメル（二箱10円）を買ってカードが50点になるともらえた名作文庫。

当時、世はキャラメルの時代。当時の子どもの夏休みの小遣いの半分近く（50円）はキャラメル代だった。

昭和27年から「シンデレラ姫」母を訪ねて「宝島探検」など159点を刊行。著者はカバヤ文庫のことをもっと知りたくて、岡山のカバヤ食品、関係者、カバヤ文庫のファンだった当時の子どもたちを訪ねる旅を重ねた。

(広田)





# 第36回福祉まつり



今年で36回目の開催となる福祉まつり。毎年多くのボランティアに支えられて開催されています。

「地域の福祉、みんなで参加」を合言葉に、福祉教育や市民交流、関係機関・団体の連携を深めます。

各種ステージや手話コーラス、見えにくさ体験・車いす体験・高齢者体験などの各福祉体験コーナー、おいしい食べ物、物販など催し物が目白押し。

どなたでも自由に参加できますので、ぜひ遊びに来てみてください。



日時：10月28日(日)  
10時～15時

場所：直方市体育館

お問い合わせ：直方市社会福祉協議会

電話：0949(23)2551



あなたも一緒にヘルパーとして働いてみませんか。



## ■ 資格

- ・ヘルパー2級以上
- ・普通自動車免許

## ■ 賃金(時給)

- ・生活援助  
(日 中) 1,100円  
(早朝夜間) 上記2割増し
  - ・身体介護  
(日 中) 1,550円  
(早朝夜間) 1,860円
  - ・移動支援(ガイドヘルプ)  
(身体有り) 1,400円  
(身体無し) 1,260円
- ※詳細はお問い合わせください。

## ■ 活動時間

- ・7時～21時 ※勤務時間は相談の上

## 【お問い合わせ】

直方市社会福祉協議会  
ホームヘルプサービス 香月・毛利  
☎0949(23)2551  
(月～金 8時30分～17時)

ご寄付ありがとうございます。  
ごぞいいます。



平成24年5月11日～平成24年8月10日

12件 合計金額280,000円

(お名前は承諾された方のみ掲載、敬称略)

## 香典返し寄付金

- 古町 (故)高崎 和代
- 頓野 大澤 千代定
- 山部 馬渡 敏子
- 感田 細田 恵美子
- 中泉 瀧口 シズカ
- 上境 山本 幹夫
- 直方 (故)村井 憲二
- 中泉 藤村 慧
- 溝堀 渡邊 ミチ子
- 下新入 野村 敏雄
- 山部 永富 則好
- 溝堀 佐藤 加志久

## 編集後記

この7月の九州北部豪雨は、大きな被害をもたらしました。  
避難をためらったという車いすの友達が「避難所には、私たちが使えるトイレだけはあってほしい。」と言っていました。  
これからは、避難所は逃げる場だけでなく、そこが生活の場を前提として作っていくことだと思います。  
防災については、一人の人が頑張るには限界を感じます。防災を考えることは近所との世代を超えた繋がりになるのではないのでしょうか。  
「備えあれば憂いなし」で真剣に考えていきたいです。

(H・T)

